

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「川を育む森を思う」



豊田市矢作川研究所
主任研究員
すざきとうこ
洲崎 燈子

■自己紹介

矢作川は長野県の大川入山（標高一、九〇八メートル）を源とし、長野・岐阜・愛知の三県を流れて三河湾に注ぐ一級河川です。

豊田市矢作川研究所は「一つの川に一つの研究所」を合言葉に、三十年前の一九九四年、矢作川漁協、枝下用水土地改良区（現豊田土地改良区）、豊田市による第三セクター方式で設立されました（二〇〇三年には豊田市役所に編入）。私は一九九八年の入所以来、矢作川流域の河畔植生や水源林、里山の現状と成立過程、望ましい

管理手法等の調査・研究に携わっています。



矢作川を遡上する天然アユ

■活動内容

当研究所は、川の豊かできれいな水の回復と、人々の生活にうるおいとゆとりを与える河川環境づくりをめざして、以下の三つを軸に活動を行っています。

- ① 流域の生物学的・人文学的研究
- ② 研究成果と流域情報の公開
- ③ 流域環境の保全に関わる諸団体の連携のサポート

主な研究テーマとしては、川と海を回遊する天然アユを指標種とした水生生物のすみやすい河川環境づくりや、自発的に水辺愛護活動を行っている地域住民への情報提供や活動目標づくりを通じた支援に取り組んでいます。



水源域の人工林調査



地域住民の活動による川辺の風景の変化

■メッセージ

矢作川流域は大企業の城下町を抱えながら自然が豊かで、住民が地域の自然に深い思い入れを持ち、保全活動をしてきた長い歴史があるのが特徴であり、魅力です。

この流域の七割を森林が占めていますが、森林で最も広い面積を占めているのが人工林で、次いで多いのがコナラなどの里山林です。これまでに流域の森づくりや木づかいに関わる皆さんと一緒に、市民参加型の人工林調査「森の健康診断」の開発と運営や、矢作川流域懇話会による「流域圏担い手づくり事例集」の作成に取り組んできました。

今後、川の水の恵みを受けている中、下流部の住民も巻き込んだ人工林や里山林の再生をお手伝いしていければと思っています。

○連絡先

〒471-0025

愛知県豊田市西町2-19

豊田市職員会館一階

電話 / 0565-34-6860

<http://yahagigawa.jp/>

